

きほくのまち人探訪

「若い人たちも共に猟友会の活動を」



上甲 仁さん

広見猟友会会長を務める上甲仁さん。会長になって3年目を迎えました。広見猟友会会員の免許の更新、狩猟登録の書類の手配や狩猟免許初心者講習の講師などを行っています。

幼少期、猟をしていた叔父さんに、猟へよく連れて行ってもらっていたという上甲さん。「猟銃で獲物をしとめる叔父の姿がかっこよかった」と話します。その姿が忘れられず、26歳のとき、東京から鬼北町へ帰郷後、狩猟免許を取得。それから早、40年が経とう

としています。叔父の影響もあり、罠ではなく、猟銃で獲物を捕まえるのが上甲さんのスタイル。活動しやすい気候の11月から4月の間には、週に2回ほど有害鳥獣の駆除や狩猟に向かいます。

猟友会の会員も高齢化しており、若い人たちが少なくなっています。上甲さんは、「若い人たちもぜひ狩猟に興味をもって猟友会の仲間になってもらい、一緒に活動してほしい」と呼びかけていました。

ALTの鬼の里Diary ~Ada's 編~

「Learn natural farming」



私は、祖父が農家だったこともあり、農業に興味があります。父が農業をする姿も昔から見てきました。

私は、自宅で花とトマトを育てています。植物を育てることはとても楽しいです。

アメリカにいたとき肥料や農薬を使わない日本の自然農法の話を知ることがありました。まるでネイティブアメリカンの農業みたいだと思いました。その農業では、まずトウモロコシの種をまき、少し成長したらその横にカボチャと豆の種をまきます。豆はト

ウモロコシを伝うように大きく成長することができ、カボチャの大きな葉はトウモロコシと豆を乾燥から守ります。この3つは、育てるのに相性が良い作物とされ、「インディアンの三姉妹」と呼ばれたりもしています。

私は、日本に来て自然農法の発明者を調べました。その方の名前は「福岡正信」さん。伊予市にいた方で驚きました。福岡さんの著書「自然農法わら一本の革命」も買って読みました。読みやすかったのでぜひ多くの方に読んでほしいと思います。

地域おこし協力隊活動日記

「鬼北町での暮らしを楽しんでいます」

地域おこし協力隊1年目

まさき たけお
正木 健夫



皆さん、こんにちは。着任から4カ月が経ちました。協力隊1年生の正木健夫です。

今年の梅雨期間は、長く毎日ジメジメしている中、気温だけは急に夏が訪れたような気がします。コロナ収束の目処も立たない状態ですが、気を緩めないように感染予防をしましょう。

私の協力隊としてのミッションは泉貨紙（和紙）の技術習得と販路開拓ですが、それ以外に以前の生活では経験のできないことが盛りだくさんです。

星空が近い、山に囲まれていて空気がきれい、19時以降に騒音のない静け

さ、毎日いろんな生物と格闘、川沿いの除草で草刈り機を使用、などなど日々新鮮な体感をしています。

鬼北町に触れ、鬼北町に学び、鬼北町をアピールできるよう、元気いっぱい頑張ります。

7月より1名増えて4名体制です。今後もよろしくお願ひします。

